

敷島小学校 学校関係者評価書

令和4年2月25日（金）
学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和4年2月14日（紙面提案）

新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、感染症対策として紙面にて御意見を頂きました。

会 場：紙面提案

参加者：学校関係者評価委員 ※敬称略

【学校評議員】 小田切道之 松土仁郎 清水學 平賀文子 藤本毅裕

【PTA会長】 飯室雄大

【PTA副会長】 芳賀太一 中島恵 小林恵里香 石原紀子

【学校】 校長 教頭 教務主任

I 学校側から提案された内容

学校側から11月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」、「保護者アンケート」を基礎資料として分析した「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

- (1) 学校教育目標及び学校経営方針について
- (2) 自己評価について
 - ① 全体評価
 - ② 項目ごとの評価結果について（達成状況・改善策）
 - (ア) 学校教育目標・学校経営について
 - (イ) 学校運営について
 - (ウ) 学習指導について
 - (エ) 生徒指導について
 - (オ) 地域との連携について
 - (カ) 学校の特色に関して
- (3) まとめ

II いただいた主な御意見

学校が取りまとめた自己評価書をもとに、本校の教育活動や学校運営の状況について紙面にて意見を提出していただいた。提出された意見を「感想や成果」「今後の課題」「お願い」の3観点でまとめることで学校関係者評価とした。

＜学校関係者評価書＞

「感想や成果」

- ・新型コロナウイルスの感染防止のため、多くの行事や学習活動に支障をきたし学校運営についても大変な年度となった。学校運営について全ての項目で前年度より肯定的な回答が多くなったことは全職員の努力の成果である。新型コロナ感染症の拡大時にも職員の研修に対する関心が高まっていることは研究内容の充実の証である。担任だけでなく、全職員で全校児童とのふれあいの機会を持つように心掛けるとともにPTA活動を通して保護者との交流を深め、児童や保護者から相談しやすい職員集団を目指して取り組んでいることはとても素晴らしい。職員の学習指導に対する自己評価は、日々の教育活動を通して質の高い確かな学力を育てる授業実践を努力していることが伺え職員の努力に感謝したい。
- ・生徒指導への評価については、昨年度より向上していることから職員が子供の様子をよく見ていることがうかがえる。また、児童のアンケートからも「学校が楽しい」「仲の良い友達がいる」「困ったことがあったら相談できる友達がいる」「困ったことがあったら相談できる先生がいる」について昨年より肯定率が高い。保護者のアンケートでも同じ傾向なので生徒指導の良い成果が表れている。
- ・学校の特色に関して、読書活動や音楽活動などの内容について職員全体が理解してファミリータイムや運動会などの行事に取り組む活動を今後も大切にしたい。成果については学校教育目標、学校経営方針に基づき、児童や地域の実態にあった取組が行われ着実な成果がみられた。
- ・近年、子供達を取り巻く環境は急激に変化し学校教育が全体的に大変な中、大変良い方向に進んでいる。地域、保護者、職員とのコミュニケーションがしっかりとれており、子供達が安心安全に過ごせる環境づくりができていているように思う。職員が一生懸命に取り組んでいる姿がいろいろな場面でみられとても素晴らしい。
- ・個々の児童に目を向け、伸ばす指導をしていることがわかり信頼ができる。アンケート結果もその分析がしっかりとされており、敷島小学校はとても良い学校だと思う。長引くコロナ禍にあって、安心安全に努め、常に工夫して子供達に接している職員に敬意を表すとともに、いろいろな面で評価が向上していることは誠に喜ばしい。
- ・校長先生をはじめ職員が保護者、地域の方々の意見を聞き、開かれた学校づくり推進のため日々努力されていることに感謝したい。コロナ禍で大変な中、多数の子供達が学校生活を肯定的に感じている点が保護者は安心できる。児童、保護者から相談しやすい学校を目指すという点も、子供達の個々の問題を早期に解決していくために重要だと思う。
- ・昨年度に引き続きコロナ禍で、様々な行事が変更や中止を余儀なくされたが、学校は試行錯誤し工夫して子供達のために取り組んで頂けたと実感している。
- ・児童のアンケート結果が全体的に肯定的な評価であるため、多くの子供達にとって学校が良い環境であり、楽しく充実した学校生活を送ることができていることがうかがえる。コロナ禍で制限されることが多く、我慢することが多い状況でも子供達が楽しく学校生活を送れていることは非常に評価できることである。熱心な指導や感染症対策を含めた環境づくりなど職員の努力のおかげである。職員の評価も大変肯定的な結果であり、職員の努力がしっかりと子供達の学校生活に反映された結果となり相互に良い傾向にあるように感じる。
- ・分散登校時でも地域の方が下校時に防犯パトロールをしてくださり大変ありがたかった。

- ・「学校は楽しいですか」の質問から始まり、授業、先生、学校生活、家庭のことなどで、肯定的な回答が多く、たくさんの子供達が日常において困ることなく学校生活を過ごすことができるのだとわかり安心した。コロナ禍で生活様式が変わり、大変な中にもかかわらず子供達の回答が肯定的ということは、学校の様々な配慮のおかげであると感謝している。
- ・今年度もコロナ対策を行った上で教育に取り組む学校には感謝している。その中でアンケート結果が昨年の混乱のあったコロナ禍と比較して、今年度は全体的に肯定的な回答が多く見られたことで、とても安心している。コロナ禍でもどうすれば児童のためになるか考え方針を決めていただいたことが「学校は楽しい」と児童が思える結果につながったように思う。改めて学校での生活や教育が必要だと感じた。
- ・安全安心できる学校づくりは表現が抽象的なので、災害や防犯、性教育を含め心身を守れる子供達が育てられるような取組があるといいと感じる。
- ・コロナ禍の中感染症予防をしながら可能な限り教育活動を推進してくださっていることに感謝したい。特に無事修学旅行や林間学校、運動会が執り行えたことには職員の努力に頭が下がる思いである。
- ・学校の熱心な授業研究の姿勢は、子供達の声や授業参観でよく拝見させていただいた。特に主体的で対話的な活動を多く授業に取り込み、児童に深い理解を促している先進的な授業を行っている努力に感謝したい。

「今後の課題」

- ・課題について13項目の各課題は教職員の自己評価、児童、保護者アンケートからも大切な活動として提示されていて、どれも重要な活動である。全職員での情報交換や実践活動が大切となる。改善点として「危機管理マニュアルの理解」と「校務支援システムの活用」が明確になったのは、新しい時代に向かった校務に大変参考になる。
- ・現在、コロナ感染症対策として様々な対応をしていただき、その苦労は大変なことだと感じる。感染症対策として分散登校、オンラインによる学習を実施されたが、その成果はどうだったのか検証が必要。著しい遅れが出ないようにいろいろな配慮があったとは思いますが、生活の変化や心身の不調等で不登校の児童が増えないか危惧している。今後、分散登校やオンライン授業による学習の成果に関して一層検証し、今後の課題として取り組んでいただきたい。
- ・全職員が学校経営方針に基づき教育活動を行っていることは素晴らしい。教育の評価は難しいが、もっと「PDCAサイクル」を活用し教育活動のレベルアップを期待したい。
- ・少数意見ではあるが「学校は楽しくない」「仲の良い友達がいらない」「授業が楽しくない」「わからないことを先生に聞けない」「こまったことを相談できる先生がいらない」と感じている子供が存在しているため個別のケアが必要である。
- ・挨拶については地域においても自主的に行っているとはいえ、学校、地域、家庭での指導が引き続き必要である。
- ・保護者アンケートで「学校以外でも挨拶できるように指導しているか」について否定的な意見が多くあった。不審者対応など家庭での対応も原因と考えられるが地域で安心して挨拶できるような環境作りが必要である。朝の旗振りなどでも挨拶ができる子が少なく感じる。学校外でも挨拶ができるような取組を地域でも呼びかける必要がある。

「お願い」

- ・学校ホームページ、だより、安心メールで学校の様子やお知らせを随時更新し配信することができている。この取組を本校の特色として更なる向上と継続を期待したい。
- ・教育に対する職員の取組が非常に良いように思う。子供達に自信を持たせるために職員が工夫し、子供に自発的な姿勢や自己肯定感を生み出している。今後も継続的な取組を行って欲しい。
- ・今後も職員と保護者の強い連携により教育目標を達成していただきたい。学校が子供達にとって居心地の良い場所であり、各自が得意分野で活躍できる自己肯定感を高められる場所であって欲しい。
- ・コロナ禍で子供達は友人関係を阻害され、みんなと学ぶ楽しさが奪われている。知識の詰め込みにならないようお願いしたい。行事の削減、地区の行事の中止など、豊かな心を育む場が損なわれないか心配である。経済的に困窮する家庭が増えていると聞くと、その子供への配慮もお願いしたい。
- ・「地域行事に参加していない」の増加は実感としてある。地域行事でも子供を対象として楽しんだり交流したりするものが全くなく、親としても危機感を感じる。可能であれば学校の教育活動の一環として子供達が多くのもにふれあい新しいものを発見できる機会をつくって欲しい。
- ・アンケートの回答で学校オリジナル項目が選択肢の説明が明確でなく答えにくかったので、次のアンケートでは改善してほしい。業務の効率化と働き方改革については、職員の健康のため時間外勤務を減らす取組を強化してほしい。
- ・担任だけでなく全職員が全校児童とふれあう機会があることはとてもよいと思うので今後も継続してほしい。あいさつ運動、読書活動、縦割り活動、ドレミファタイム、スポーツタイム等、コロナ禍においてもできる範囲で今後も取り組んで欲しい。
- ・職員の自己評価では肯定的な結果がほとんどで真剣に取り組まれている様子が分かる。しかし一方ではCの意見があることから少数の意見にも大切にして教育現場の環境改善に努めていただきたい。
- ・問題行動への早期発見や対応ですが、職員による直接的な発見や聞き取りがしっかり行われ安心する。今後もICT機器の積極的な活動が進むことで心配されるいじめ問題もあることから、改めて使用方法や情報モラルについての教育を推進していただきたい。また家庭でも進めていきたい。
- ・子供達がこれから旅立つ世界は先行きの見えない混沌とした世界です。他者と協働し持っている力を有機的横断的に活用しながら対応することが求められています。知識の蓄積だけでは進んでいけない世界です。このような能力の土台を小学校のうちから少しでも築いていけるように学校にはこれからも授業研究を進めていただきたい。これからも職員一人一人が個人商店にならず、優れた実践やノウハウを共有しながらチーム学校で取り組んでいただきたい。
- ・子供の問題でネガティブな報道も多い中、職員が優しく暖かく指導して頂いていることに感謝したい。子供から学校の様子や友達との交流などを楽しそうに語る姿を見てありがたく思う。今後も引き続き安心安全にのびのびと子供らしく過ごせる学校を続けていただきたい。
- ・英語の学力向上についてですが、点数や知識の定着より「英語がすき」でいられるような指導をお願いしたい。音楽や体育も同様ですが、好きになって楽しさを感じられれば子供は勝手に練習して勝手に上手くなります。英語は小学校数年間で完成できるものではなく生涯を通じて身に付けていくものである。ぜひ、英語が嫌いにならず、意思が通じる楽しさや新しい世界を知る喜びを感じられるような楽しい授業を行ってほしい。

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切道之